

NGOトーク
理事が聞く

第50回

団体とボランティアを
つなぐ情報誌「ボラみみ」

(特活)ボラみみより情報局 理事 大田 哲嗣さん &

(特活)名古屋NGOセンター 理事 山崎 眞由美

立ち上げた
きっかけは？

山崎 この「さんぐりあ」は1,000部発行していますが、月刊「ボラみみ」は1万部発行しているそうですね。市民活動やボランティアに興味がない人も一度は見かけたことがあると思います。

どのようなきっかけで始めたのでしょうか。

大田 私が高校3年生の頃に福祉関係のボランティアサークルをしていて、現代表の織田元樹と知り合いました。私たちの団体が、札幌で発行されていた「ボラナビ」というボランティア情報誌に紹介される機会がありました。その「ボラナビ」にはいろいろなボランティア情報が載っていて、コンビニなど普段よく行く店に置かれていました。こんな冊子が愛知にも必要だと思いました。そして1999年に織田と私を含む4人で「ボラみみより情報局」を立ち上げて、2000年に創刊号を発行しました。以来私は福祉施設に勤務しながら理事としてボラみみを運営しています。

山崎 労力を提供したりモノを送るのがボランティアとされていた時代に、情報を扱ったというのがとても先進的な取り組みだと思います。置いていただける場所を探すのも苦労したのでは？

大田 社会福祉協議会のような公的機関にはボランティア情報があるわけですから、そこにたどり着かない層に訴えたいと思いました。そのため地元スー

パーや高校・大学など1軒ずつ回ってお願いしました。市役所や区役所は最初は断られていたのですが、少しずつ実績が増えて置けるようになりました。現在は愛知県内を中心に700箇所以上に置かせていただいています。

山崎 ボランティアに関心が少ない方は、わざわざボランティア情報を探したりしませんよね。そういう層に読んでもらって行動を起こしてもらうのはとてもいい考えだと思います。

ボラみみでも
ボランティアが活躍！

山崎 名古屋NGOセンターは中間支援団体なので、何かと何かをつなぐだけで財源はどこからもきません。ボラミ

みさんもボランティアで編集するにしても印刷費がかかりますが、無料で配布していますし紹介する団体から掲載料をもらうわけにもいきませんよね。収入はどうしているのですか？

大田 最初は織田が自分の貯金を崩して発行していました。次第に行政からも信頼されて事業を受託することができて、職員も雇用することができるようになりました。最初の5年は赤字でしたが、どんなに苦しくても10年は続けるつもりで基盤を作ったところ、市民活動センターの運営や企業からの受託もするようになりました。その企業は社員の社会貢献の場としてボランティアを勧めているものの、どの団体を勧めればいいのかノウハウがなかったので、場を作る事業を行いました。

山崎 企業との連携は参考になりますね。

大田 またボランティアの力も必要です。職員だけではボラみみを発行したり、事務局を運営することはできません。ホームページを作れる方とか、企業での営業スキルを生かせる方など、今では80人のボランティアさんが活躍しています。

新しいボランティアさんを受け入れるときは、しっかり面接をしてどういうことをしたいのか聞いています。最初は「何でもやります」という方が多いのですが、それぞれの社会経験、人生経験を踏まえながらやりたいことが明確になっていきますし、そういう経験が生きて活動が広がってきます。ボラみみを発行して



黄色の表紙の月刊「ボラみみ」



加盟団体の活動や思いを2ページにわたり紹介する「NGOトーク 理事が聞く」。ちょうど50回目となる今回のお相手はボランティア情報誌「ボラみみ」を発行するボラみみより情報局。名古屋NGOセンターとボラみみさんの事務局は同じ建物(名古屋YWCA)にあります。

おおた てつじ
大田 哲嗣さん

やまざき まゆみ
山崎 真由美



17年になりますが、メンバーの意見を聞いて冊子の内容を少しずつ変えています。前半の特集やインタビュー記事も、メンバーが興味のあることを自分たちの目線で作っています。

山崎 ボラみみさん自体がボランティア活動のモデルになっていますね。

ボラみみでボラを募集するコツとは

山崎 これを読んでいる団体の方も、ボラみみでボランティアを募集した経験があるかもしれませんね。ボラみみに掲載してもらうとき、気をつけたいポイントがありますか。

大田 いつでも来てほしいというのが本音かもしれませんが、「常時募集しています」というより「〇月〇日のイベントをするのに人手が足りないので手伝っ

てください」とか、「障害者の方と一緒に遊びましょう」とか、ボランティアに頼みたいことを具体的に書くと呼募が増えますね。

また、せっかく来てくれたボランティアが、以前からその団体に活動している方となじめずに去っていくこともあるかもしれませんが、新しく来てくれた方を快く受け入れる雰囲気づくりが大切ですね。

山崎 出会いの場をボラみみさんがセットした次の、ちょっとやってみる「ちょいボラ」をどのように「本気のボラ」というセカンドステージに誘うのかが、団体の手腕の間われるところですね。応募すればどの程度載せてくれるのでしょうか。

大田 最近は大変多くの応募があり、全て掲載することはできません。「みみライン」というインターネット版ではいただいた情報を全て載せており、紙媒体のボラみみはそこからの抜粋になります。

正会員や賛助会員になっていただければ紙面の掲載を優遇する制度があります。

山崎 この「さんぐ

りあ」も今号から名古屋NGOセンターのHPにPDFを掲載することにしました。ネットだと経費もあまりかかりませんし、特に若い世代になじみやすいというメリットがあります。紙媒体とネット媒体の使い分けはどうお考えですか。

大田 ネットはやはり積極的にアクセスしてもらう必要があるのですが、紙媒体も継続していきたいと思います。一方「みみライン」は情報が新鮮ですし日付順に並んでいるので、応募するボランティアにとっても使いやすくなっています。[編注:原稿締切時点で登録団体484団体、ボラ募集73件掲載]。ボランティア側がスキルややりたいことを登録しておく団体からお誘いのメールがくる「スカウトメール」というサービスも行っています。

山崎 名古屋NGOセンターの事務局は名古屋YWCAビルの7階、ボラみみさんは6階と同じ建物です。以前のコンビ本陣の時も、その前の笹島の本田ビルの時も同じ建物でした。スタッフ同士よくランチに一緒に行くと聞いています。そういったところから情報交換やつながりが生まれると思います。今日はありがとうございました。

(記録:丹羽)

「ボラみみ」の電子版「みみライン」

団体概要

特定非営利活動法人 ボラみみより情報局

〒460-0004 名古屋市中区新栄町2-3 YWCAビル6階
TEL : 052-228-7824 FAX : 052-228-7834
http://www.boramimi.com/
email:office@boramimi.com